太田小学校　地域説明会　記録

日　　時	令和３年 11 月 14 日（日）10:00～11:10	場　所	太田小学校体育館

（内容）

発言者	発言内容
市職員	1.　開会 2.　挨拶　（教育次長） 3.　男沼小・太田小・妻沼南小の統合について 本日配布させていただいたＡ４横書きの「学校規模適正化について」の資料を使って「太田小学校・男沼小学校・妻沼南小学校の３校の統合」について説明させていただきます。 １㌻から３㌻については、以前の説明会などでも説明していますが、初めて説明会にご参加された方もいらっしゃると思いますので、改めて説明します。それでは１㌻をお願いします。 全国的な少子化の進行により、児童生徒数が減少していますが、本市においても、ほぼ全ての学校において児童生徒数が減少し、学校の小規模化が進んでおり、この傾向は、今後も続くことが見込まれています。 小規模の学校では、 ・児童生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ・児童生徒に目が届きやすい。 などのメリットがある一方で、 ・集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学び合いの機会、切磋琢磨する機会が少なくなる。 ・人間関係相互の評価が固定されやすい。 などの課題も懸念されています。 こうした状況から、国からも市町村ごとに、「少子化に対応した、活力ある学校づくり」について、継続的に検討・実施していくことが求められ、本市においても「学校規模の適正化」に取り組むことになり、平成３０年１１月に「熊谷市立学校の適正な規模に関する基本方針」を策定し、この方針の中で、規模の適正化を図るための方策として「学校の統廃合」を進めることとしました。右の表をご覧ください。 基本方針では、「学校規模の基準」として、小学校ではクラス替えが可能な１学年２学級以上が望ましいこととし、「学校統廃合等の基準」を「複式学級」が見込まれる場合は直ちに検討し、また、「全学年で単学級」となることが見込まれる場合は、児童数の動向に注視しながら検討することとしました。この後、４㌻のところで詳しく説明しますが、太田小・男沼小・妻沼南小は、今後

	も「全学年で単学級」が見込まれています。 ２㌻をお願いします。 左の表に統廃合の案を記載していますが、一番上の成田小と星宮小については、冒頭の挨拶で申し上げたとおり、「熊谷市立成田星宮小学校」として計画案のとおり２０２３年、令和５年４月からの開校に向け、準備を進めています。 太田小・男沼小・妻沼南小の３校の統合は、２０２５年度、令和７年度の計画となっており、ほか、小学校では７地域、中学校では６地域の統合を計画しています。 統廃合の内容ですが、右側のとおり、統合に当たっては、規模や経過年数に関わらず、対等な関係の統合とし、新たな学校として設置します。 設置場所は、既存の学校を使用し、校地面積や校舎の建築年数などを勘案して決定し、通学方法は、元の学区に小学校がなくなる地域については、原則スクールバスの利用を想定し、中学校については、自転車通学を想定しています。 また、統合は新たな学校として設置されることになるため、学校名なども新しいものになります。学校名も含め、校歌や校章など、具体的なことについては、新校設立準備委員会を立ち上げ、学校や保護者、地域の皆さんとともに検討して決定することになります。 ３㌻をお願いします。 ３校の統合の方針案ですが、２㌻のところで説明したとおり、２０２５年度に３校を対等な関係で統合し、設置場所は、校舎が新しく、面積も広い、妻沼南小を考えています。 続いて、右側に記載してある適正化のメリットですが、 ・児童生徒を多様な考え方に触れさせることにより、集団の中でルールを学び、社会性を高めるとともに、より自らの個性や学力、体力を伸ばすことができる。 ・新たな人間関係を構築する力を身につけさせることができるとともに、人間関係の固定化を回避できる。 ・児童生徒同士の人間関係や教員との人間関係に配慮した学級編成ができる。 など、学習生活面のメリットのほか、 ・経験、教科、特性等の面でバランスの取れた教員の配置を行うことができる。 ・ＰＴＡ活動等における保護者一人一人の負担が軽減できる。 など、学校運営の面でもメリットがあります。 ４㌻をお願いします。 上のグラフは令和３年５月１日現在の、住民基本台帳人口を基にした令和３年度から９年度までの児童数の見込です。それぞれ、左から男沼小、太田小、妻沼南小の順に並べていますが、真ん中の太田小をみますと、３年度から順に、

	１４０人、１３０人、１１８人、１１２人、１０３人、１００人、８４人と年々減少し、また、他の２校も同様に減少する見込となっています。 　また、左下のグラフは、統合予定の２０２５年度の児童数の見込です。左側の黒塗りは、市全体の人口減少率に基づき推計した児童数で、右側の白色が住民基本台帳人口を基にした児童数となります。 　一昨年の説明会では、この左側の推計値を使って説明していましたが、推計値よりも更に２割程度減少することとなります。 　また、右下の表は、統合予定時の３校それぞれの学年ごとの児童数の見込ですが、男沼小においては、２年生・３年生の合計及び４年生・５年生の合計がそれぞれ１６人以下となり、統合しない場合は、複式学級が２つ存在することが見込まれ、実際の児童数の減少には厳しいものがあるということがお分りいただけると思います。 　５ﾍﾟｰｼﾞをお願いします。 　次の６ﾍﾟｰｼﾞまで、保護者の皆様からいただいたご意見やご質問の抜粋となります。１の統合についての意見としては、 ・統合により切磋琢磨でき、一人一人モチベーションがあがる。 ・統合には賛成。人間関係の固定化など、解決が難しい事も改善される。 ・時代の流れに見合った最適な方法 ・子供達の事を第一に考えての統合であれば、反対はしない。 など、統合に積極的なご意見のほか、 ・地区に学校がなくなるのは大変さみしいが、子供が減っていることを考えれば、統合は仕方がない。 など、積極的ではないものの、統合には賛成というご意見がある中で、 ・少人数の方が一人一人に先生の目が行き届く。 ・バス通学が不便であるので反対。 という、ご意見もいただいています。 　続いて、２は、 ・子供達の精神的な負担や勉強への影響など、少人数から大人数になることでの学校生活での心配や不安。 ・スムーズに移行できるように、少しずつ環境を変える準備など、事前の取組案を示してほしい。 などのご意見もいただきました。 　こちらについては、統合前から子供達の交流イベントを開催したり、授業を一緒に受けたりして、子供の不安を解消し、新しい環境にスムーズに馴染めるよう進めていきます。 　また、統合後についても子供達にアンケートを行うなど、心のケアに努めて

	いきます。 続いて、３のスクールバスについてのご質問ですが、実際の運行方法、乗降場所などは、統合に向けた準備を進める中で、保護者や地域の皆さんと協議して決定することになりますが、現時点で想定している主な内容としては、太田小・男沼小の児童の登下校はスクールバスとなります。バス利用の保護者負担はありません。 また、乗車場所を複数箇所設置して、通学班で乗車場所へ集合し、午前８時くらいまでに、現妻沼南小に到着できるよう、ルートや時間を決定し、下校については、下校時間に合わせて、学年ごとに乗車して、登校時の乗車場所で降車することを想定しています。また、スクールバスによる通学となった場合でも、スクールガードや旗振り当番も含め、引き続き保護者や地域の方々の見守り等のご協力をいただきたいと考えています。 ６㌻をお願いします。 ４の体育着などの学用品についてのご質問ですが、こちらも保護者の方々に、ご協力いただき、統合に向けた準備を進める中で決定することになりますが、保護者の負担にならないように、これまで使用している体育着も使えるようにします。新しい体育着も速やかに決定して、買替え等に対応したいと考えています。 ５の統合後の学校跡地ですが、地域の活性化に資するものや、カルチャースクールや塾、子供達の遊び場として活用してほしい、とのご意見や、避難場所として小学校がどの程度残るのか、とのご質問をいただきましたが、学校の跡地活用は、統合の準備が進んでから検討組織を設置して、地域の代表の方々にご参加いただいて検討していきます。地域の皆様のご意向を伺い、可能性を調査しながら検討を進めていきます。 続いて、６のその他のご質問ですが、ＰＴＡの役員も含め、統合後のＰＴＡに係る活動等についても、保護者や先生の方々で統合に向けた準備を進める中で、これから改めて決めていくことになります。 また、学童クラブですが、現在の妻沼南児童クラブに集約します。児童館内にある現在の児童クラブで不足する場合には、新規の児童クラブの設置を検討していきたいと考えています。 以上が、ご意見・ご質問の説明となりますが、本日、配布したもう一つの資料にすべてのご意見等を掲載していますので、後でご確認いただければと思います。 まとめになりますが、小規模校には一人一人にきめ細やかな指導がしやすい

	などの小規模校の良さや、地域交流や子供達を地域で育む場など、地域コミュニティの核としての性格があることは承知しています。 　しかしながら、これから社会に向かって成長していく子供には、一定の規模の集団の中で学ばせて、これからの時代に必要な力をより身に付けさせたいという思いがあります。児童数の減少には厳しいものがあり、最終的には子供の教育環境を最優先に考えた結果、統合が必要であると考えました。 　また、保護者から反対のご意見もありますが、賛成のご意見も多くいただいています。また、スクールバスなどのご質問からも、統合までに決めるべき事項が様々あり、一定の準備期間が必要になります。子供や保護者の心配や不安を解消するためにも、統合に向けた準備を始めさせていただきます。 　地域の皆様には、これまでどおり子供達を見守り、子供達の成長にご支援とご協力をお願いします。 　最後に、統合の準備の進め方について、説明します。 　この後速やかに、男沼小、妻沼南小も含め、新校設立に向けた準備委員会を立ち上げるとともに、検討する内容ごとの部会も立ち上げて、十分な時間をかけて、準備を進めていきたいと考えています。 　準備委員会には、地域やＰＴＡの代表、校長先生に入っていただきたいと考えています。また、検討部会は学校運営部会、通学部会、ＰＴＡ部会などの設置を考えています。 　それぞれの部会ごとの構成員や内容ですが、学校運営部会では、校名、校歌、校章や体育着などの学用品などについて、通学部会では、スクールバスの運行方法や乗降場所など、ＰＴＡ部会では、ＰＴＡ組織や運営、役員の選出などについて協議することになりますので、先生のほか、保護者や地域の方々にも委員となっていただきたいと考えていますので、委員の選出に当たりましては、ご協力をお願いします。 4.　質疑・応答
市民	児童数について、全国的にどの程度減っているのか。地域の子供はかなり減っているように感じる。
市職員	全国の出生数は、現在７０歳代の時は２百数十万、最近は百万人を切っています。減少率に地域差はありますが、減少しているのは事実です。
市民	スクールバスはどこに停まり、どのように運行するのか。市としての基本的な考え・方針はあるのか。
市職員	統合により、元の学区に小学校がなくなる地域の児童については、スクールバスでの通学を考えています。また、スクールバスの乗車場所を複数箇所

	設置して、児童は乗車場所までは歩いていくことを想定しています。乗車場所までは通学班で集合しますので、スクールガードや旗振り当番などは、引き続き、ご協力をいただきたいと考えています。 　スクールバスの乗車場所や運行方法等の詳細については、総合に向けた準備の中で、関係者で組織する通学部会で検討を行います。
市民	自校式給食はどうなるのか。
市職員	衛生管理や食物アレルギー対応、異物混入の防止等について、管理の一元化を図ることが可能であり、安心安全な学校給食を提供できることや、調理場の整備が困難な学校が複数あることなどを理由として全市的に給食センター方式を採用する方針です。新たな給食センター建設後は、自校式の学校は順次センター方式に移行していきます。これは学校統廃合に関わらず実施する予定です。
市民	センター方式の方が食中毒発生のニュースが多いと感じているが。
市職員	そういったニュースなどがあるのは把握しています。新センターの整備に当たっては、衛生管理の対策も十分に行う予定です。
市民	新給食センター整備は、今後予定しているという話だが、既に工事が始まっているのではないか。工事車両が行き来しているのを見かけている。
市職員	まだ建設は始まっていません。現在の熊谷給食センターの運営に必要な修繕工事は実施しています。
市民	水泳授業の校外方式について、市内の一部の小学校で開始されたと聞いた。どのような状況なのか。
市職員	今年度から熊谷東小及び成田小で民間プールを利用した校外方式水泳授業を実施しています。 　昨今の気候の影響により、水質の悪化や水温の上昇など安全・衛生管理などの部分で教職員による管理が困難になっています。校外方式導入により、こうした教職員の負担を軽減することができています。 　また、インストラクターによる専門指導を受けることで、児童の水泳技術の向上が見受けられ、児童から「クロールができるようになった。」、「水が怖くなくなった。」、「潜れるようになった。」等の声が聞かれます。年間を通して水泳授業ができることから、大変効果があると考えています。 　妻沼地区においても、将来的に校外方式を導入するに当たっては、まず受

	入施設を確保することが課題と考えており、市内のすべての学校がすぐに校外方式を導入できるわけではありませんが、施設の確保ができ次第、順次導入していく予定です。
市民	太田地区は、人も減って寂れてしまった。将来的に太田地区はどうなるのか。市の考えは。
市職員	地域の活性化については、熊谷市の一番のベースになるものとして、熊谷市総合振興計画があります。これを受けて、総合戦略という特別な取組を行っています。地域については、それぞれの地域の特性を生かしながら、地域の活性化を図る、具体的には校区連絡会の活動などを支援して、活性化させたいというのが熊谷市の考えです。
市民	新校の名称はどうなるのか。統合の３校の中で一番古いのは太田小だ。
市職員	３校の統合は新たな学校として設置しますので、校名については、学校の位置が妻沼南小だから「妻沼南小」、一番歴史があるから「太田小」とするわけではなく、統合準備委員会の中で話し合いながら決めていきたいと考えており、現時点で校名は決まっていません。
市民	スクールバスに関して、具体的に分かるのはいつぐらいなのか。
市職員	統合に関する基本的な事項は、統合１年前までには、ある程度決定して、保護者の皆様にもお知らせしたいと考えています。 スクールバスの乗降場所についても、統合１年前までには決定したいと考えていますが、具体的なルートや時間については、統合の前年度中にバス会社と調整の上で決定することになります。 その上で、統合前にはスクールバスの試乗会を実施したいと考えています。
市民	資料には通学距離の基準で小学校はおおむね４㎞以内とあるが、これは往復の距離か。統合後の通学方法は。
市職員	片道です。基本方針では、基準を超える場合はスクールバス等の通学手段を検討することとしていますが、学校の統合により、元の学区に小学校がなくなる地域については、通学距離に関係なく、全員がスクールバスでの通学となります。
市民	親の都合で子供を迎えに行けなかったり、急遽親が不在にするときなど、

	学校が終わった後に、子供を一時的に預かってもらえるような制度はできないか。学童クラブのように事前に申し込んで利用するようなものではなくて。
市職員	御要望として承ります。
市民	太田地域は人口減少が著しい。農業を継ぐ人がいない。
市職員	地域によって、農業の後継者不足も課題です。新規就農者を増やすように取り組んでいます。
市民	通学に関して、バスではなく徒歩で行くことも健康には良い。小中学生が暴れるというのは運動不足が一因だ。
市職員	統合後は、バスの乗降場所までは徒歩になるので、一定程度の徒歩による運動というのは確保されると考えています。中学生に関しては、統合の場合はスクールバスではなく、自転車による通学を考えています。
市民	市の資料では、統合に関する市の考えが示されているだけで、具体的な事項はまだ決まっていないというのが現状で、今日も多くの方が統合後の通学について質問されている。 今後、保護者や地域の方の意見を聴いて、子供達にとって一番良い内容になるよう決定していくことになると思うが、先行して統合の準備を進めている成田小と星宮小の統合が参考になる。 自分は、教員として児童数の多い学校と少ない学校の両方を経験したが、児童数が少ない学校の授業はかなり難しい。また、３校の児童数の推移をみると複式学級も見込まれ、複式学級になると、教える教員側もかなり大変だ。やはり、ある程度児童数のいる学校の方が、活気があって、お互いに競うだけでなく、応援されることで普段以上の能力が発揮できることもあるとも感じている。また、子供達の協調性や社会性を育み、健全な成長を促すためには、ある程度児童数がいた学校の方が良いと思っている。 ３校が統合しても将来的には全学年単学級になってしまう見込があり、更なる統合も考えられる。 少子高齢化は、すぐに解決できる策というのはなく、学校の統合という問題も避けて通れない。 統合によって、近くに学校がなくなると子供達の声が聞こえなくなり寂しいと思うかもしれない。また、統合にはメリットデメリットがあり、積極的に賛成という人は少ないかもしれないが、学校はあくまで子供達がメインであり、地域の子供達の将来のことを考えると、統合は受け入れざるを得ない

	と思う。 　だからこそ、これから統合に向けた準備の中で、いろいろな意見を出して、地域の子供達の教育のために取り組んでいくことが必要だと考える。
市民	先ほど、統合１年前には多くの事項を決定すると説明があったが、先行している成田小と星宮小は、統合まで大体１年前なので多くのことが決定していると思う。その中で、良い事案と悪い事案があれば教えて欲しい。
市職員	成田小は各学年２・３クラスあり、一方で星宮小は全学年で５０人程度と規模に違いがあることから、両地域で統合に関して温度差があり、校名を決める際にも、成田地域からは多くのご意見をいただき、時間をかけて協議を行いました。校名に関しては公募を行い、その中でも「成田小」というご意見も多かったですが、最終的には新たな学校を設置するということで、「成田星宮小」とすることに成田地域にもご理解をいただいて決定しました。 　現在は、校歌や校章について協議している段階です。 　スクールバスに関しても、最初は星宮地域の乗降場所を２箇所にする方向で検討していましたが、保護者からのご意見により、４箇所とすることで準備を進めています。 　また、これまでは新型コロナウイルス感染症の関係で、両校の交流事業もなかなか開催できていませんが、今年度は通常の授業を一緒に行うなどしており、準備は概ね順調に進んでいます。 5．閉会 　これまでご説明したように、３校の統合に関しては、子供達の教育環境を第一に考えてのことと皆様にはご理解いただきまして、統合に向けた準備を進めていきたいと考えています。 　今後につきましては、ＰＴＡ役員さんや地域の代表の皆様には、統合準備のための検討会へご参加をお願いさせていただきますので、ご協力をお願いいたします。 　また、本日いただいたご意見につきましては、今後も検討してまいります。 　統合に係る情報は、随時、皆様にお知らせしてまいりますので、その際には自治会での回覧等、自治会長様にはご協力をお願いいたします。 　それでは、これをもちまして太田小学校の地域説明会を終了します。 　ご参加いただき、ありがとうございました。